

## 第 83 回 歴史探訪の会「日本最古の官道 竹之内街道・横大路周辺の史跡巡り」

日時： 令和 4 年 9 月 21 日

場所： 奈良県 葛城市

世話人： 田原 誠也

### コース&見所（歩程約 6 km）

磐城駅～長尾神社横・「日本遺産・街道の概要」～「道標・ビューポイント(葛城連山)」～「緑の道標」・一里塚～地蔵堂・道標・旧旅館(鬼瓦)～洗い場・法善寺・孝女伊麻石碑～綿弓塚(昼食)・「松尾芭蕉の事」～ビューポイント(大和三山・盆地景観)～芝塚古墳～鍋塚古墳(長髓彦の墓伝説)～塚畑古墳～磐城駅(解散)

磐城駅に 10 時 20 分集合・30 分出発、ボランティアガイド 4 名・1 班～4 班



磐城駅前集合 朝礼

### 日本最古の「官道」竹之内街道・横大路

大阪府堺市から二上山の南麓・竹内峠を経て、葛城市の長尾神社までを結ぶ道で、日本最古の官道とされています。現在も磐城駅～上ノ太子駅間を歩けば、大和棟の民家が数多く残る竹内集落が残ります。2017 年、「日本遺産」に認定されました。



長尾神社前 竹之内街道・横大路説明板



竹之内街道



緑の一里塚



道標



彼岸花



ビューポイント(葛城連山)



旧旅館(鬼瓦)・・・陰陽師の呪文「急急如律令 きゅうきゅうによりつりょう」

### 孝女伊馬石碑

旧下市街道(きゅうしもいちかいどう)より、伊那那岐神社(いざなぎじんじゃ)に向かう道を少し入ったところにある石碑です。その昔病弱な父親への孝行に生涯を尽くした孝女伊麻をたたえたものです。

伊麻は父が病に伏せた時、鰻を食べさせればよいと人に教えられましたが、山里ではどうしようもありませんでした。しかし、あきらめることができず、何とかして鰻を食べさせてやりたい—そんな伊麻の願いが天に通じたのでしょうか。夜がふけて大分遅くなったころ水がめの中で音がしました。何だろうと思つてのぞいてみると、何とかそこには鰻がいたのでした。喜んだ伊麻はさっそく料理をして父に食べさせると、病いはたちまちのうちに治り、もとの元気な体になりました。この話にちなみ、磐城小学校の校章は水がめの形をかたどって作られ、伊麻の命日である2月27日には、毎年追善法要が営まれ、小学生達もお参りします。



法善寺門前の孝女伊馬石碑

### 綿弓塚

中世、あるいはそれ以前の風情が今なおも残る竹内街道。大和と難波を結んだ我が国最古の官道のひとつとされています（ほかに「山の辺の道」も同時代に整備された最古の官道とされます）。その街道にある竹内峠の大和側麓は、現在、葛城市竹内。作家司馬遼太郎氏が幼少期を過ごした村（当時は竹内村）としても知られています。そこを走る竹内街道の途中、開放された旧家ふうの建物があります（公衆トイレあり）。ここが、俳聖松尾芭蕉ゆかりの綿弓塚がある綿弓広場です。

綿弓塚は、芭蕉の「野ざらし紀行」（甲子吟行）に収められた句「綿弓や琵琶に慰む竹の奥」を記念する句碑。芭蕉の没後115年後の文化6年（1809年）に建てられました。

「綿弓」とは、綿を打つ道具で、弓に似た形状をしていて、弦をはじいて綿を打ちます。綿打ちは秋の作業であることから、秋の季語になっています。

芭蕉はこの地出身の門人である千里の案内で来訪し、當麻寺を参詣するなどしました。その後も数回訪れているらしく、足が向くお気に入りの土地だったのでしょう。歌碑の近くにある立て看板には、当地方で詠まれた芭蕉の句として、「綿弓や～」を含めて、

- 里人は稲に歌よむ都かな（芭蕉真蹟）
- 楽しさや青田に涼む水の音（芭蕉真蹟）
- 僧朝顔いく死かへる法の松（甲子吟行）

など、8句が紹介されています。



綿弓塚



綿弓塚休憩所で松尾芭蕉の4つの悩み？

### 公園から大和三山眺望&盆地景観



大和三山眺望&盆地景観



大和三山眺望&盆地景観と彼岸花



大和三山眺望 & 盆地景観

### 芝塚古墳

奈良県葛城市兵家芝塚 595 にあります。周りを田圃や畑に囲まれています。周りに何もないのでよく目立ちます。全長 50m、後円部径 35m・高さ？m、前方部先端幅 20m・高さ？m の前方後円墳です。

前方部を東に向けています。墳丘は一部削平を受けています。

墳丘の周りには幅 12~20m余りの盾形をした周濠があります。墳丘に葺石は施されていなかったようです。

円筒埴輪や朝顔形埴輪・家形埴輪・須恵器・土師器などが採取されていて、墳丘に埴輪の配列がなされていた。

1985年(昭和60年)に発掘調査が行われています。主体部が二つ確認されています。

前方部頂東寄りにある埋葬施設には、内部に赤色顔料が塗られた箱型木棺(長さ3m・幅0.55m)が直葬されていたそうです。鉄刀1ふり、鉄鏃数点などが出土しています。

後円部にある埋葬施設は未調査につき、どんな埋葬なのかははっきりしていません。

古墳時代後期・6世紀前半頃の築造と推定されています。

昭和61年3月18日、奈良県の史跡に指定されています。

なお墳丘北側には、この古墳から西に100mほどの所にあった2号墳(円墳)出土の組合式家形石棺が移築保存されています。二上山凝灰岩製で、石棺内部や外面には朱塗りの痕跡があります。



芝塚古墳へ下る



芝塚古墳へ登る



芝塚古墳から田園風景



芝塚古墳から鍋塚古墳へ向かう



鍋塚古墳へ向かう



## 鍋塚古墳

鍋塚古墳は、直径 40 メートルの丸い形をした古墳、円墳です。つくられた時期は、古墳時代中期の前半(～西暦 450 年)頃と考えられています。

市内の大きな古墳としては古いもので、葛城市北部で古墳がつくりはじめられるきっかけとなった古墳です。

鍋塚古墳を造ったのは、竹内峠を越える交通路(現在の竹内街道)の管理を通じて実力をたくわえた、この地域の首長であったと考えられます。

## 長髓彦の墳墓と伝わる葛城市竹内の鍋塚古墳(なべつかこふん)



鍋塚古墳前で説明を聞く



鍋塚古墳と彼岸花

天鈿 55 年、紀元前 663 年(即位前 3 年)12 月 4 日、長髓彦との決戦～『日本書紀』

天鈿 55 年、紀元前 663 年(即位前 3 年)12 月 4 日、磐余彦尊(いわれひこ)の軍はついに長髓彦(ながすねひこ)を討つことになった。しかし戦いを重ねたが、なかなか勝利をものに出来なかった。そのとき急に空が暗くなって雹(ひょう)が降り出した。そこへ金色の不思議な鷄(とび)が飛んできて、磐余彦尊の弓先に止まった。その鷄(とび)は光り輝いて、その姿はまるで雷光のようであった。このため長髓彦の軍の兵達は皆幻惑されて力を出すことが出来なかった。長髓というのは元々は邑(むら)の名であったが、これを人名に用いたものである。

この地で磐余彦尊の軍が鷄(とび)の力を借りて戦ったことから、人々は鷄(とび)の邑(むら)と改めて名付けた。

今、鳥見(とみ)というのはなまったものである。長髓彦は磐余彦尊に使いを送った。

「その昔(89 万 8 千年前)、天神の御子が天磐舟に乗って天降られた。御名を櫛玉饒速日命(くしたまにぎはやひのみこと)といわれる。それで我々は饒速日命を主(あるじ)として仕えている。

天神の子は二人おられるのか。 どうして天神の子と名乗って、人の土地を奪おうとするのか。 私が思うにあなたは偽物でしょう。」 磐余彦は「天神の子は数多くいる。お前が主とあがめる人が本当に天神の子ならば必ずその表(しるし)があるはずだ。それをしめせ。」と言った。

磐余彦が使いの者に返答すると長髓彦は、饒速日命の持つ天の羽羽矢と歩鞞(かちゆき)を磐余彦に示した。

長髓彦が示した羽羽矢と歩鞞を見た磐余彦尊は、自分の持つ羽羽矢と歩鞞を長髓彦に示し自分もまた天神の子

であることを示した。長髓彦はそれを見て、ますます恐れ畏まった。しかし戦闘は、いままさに始まったばかりであり、回避することは難しかった。まして長髓彦の反乱軍には、改心の気持ちがなかったのである。

饒速日命は天神が気に入っているのは、天孫である瓊瓊杵尊の皇統継承者だけだということを知っていた。

長髓彦には性質がすねたところがあった。饒速日命は長髓彦に、天神と人とは全く異なるところがあるのだということを説いても無駄だと思い、長髓彦を剣によって刺し殺した。そして饒速日命は部下と共に磐余彦に帰順したのである。

長髓彦の亡骸は、奈良県葛城市竹内に有る鍋塚(長髓彦墳墓)に納められたと伝えられているという。

## 塚畑古墳

奈良県葛城市南今市原の丘陵傾斜地にあります。磐城小学校前から少し西へ行ったところです。

全長 72m、後円部径 44m・高さ?m、前方部先端幅 46m・高さ?m、三段構築の前方後円墳です。

前方部を西に向けています。墳丘はかなり削平を受けています。後円部には立派な「慰霊碑」が建っています。

墳丘の周りには幅 18m余りの盾形をした周濠があります。さらに周濠の外側には幅 4mの堤があります。

円筒埴輪などが採取されていて、墳丘に埴輪の配列がなされていました。

この古墳は未調査につき、埋葬施設やその他については不明です。

4世紀後半から5世紀末にかけての築造と推定されています。



塚畑古墳

## 長尾神社・・・今回は時間の都合で行かなかった長尾神社

長尾の森の広大な神域に鎮座し、延喜式神名帳に「葛下郡長尾神社、大、月次、新嘗」と記されている式内の古社。

このあたりを支配していた長尾氏の氏神とされるが定かでない。

鎮座地は竹内街道、長尾街道、横大路が交差する交通の要衝であり、古来より交通安全、旅行安全の神として篤く信仰されている。参道は拝殿に向かって東西に長く伸びており一の鳥居は近年新たに竣工した。二の鳥居の両脇には「なで蛙」が配されて、参拝者を見守っており、安産祈願の神としても名高い。また水光姫命は古事記や日本書紀に体が光って尾が生じていたと記されており、神様の化身が白蛇であると言われるところから蛇の頭が大神神社で尾が長尾神社という伝承がある。さらに長尾神社は西日本の長尾姓の発祥地とも表記がされているが、名字帯刀の頃より吉川家が代々受け継いでおり、関係性は定かではない。

**伝説:**昔、大和に大きな蛇が住み、三輪山を七回り半に取り巻き、その尾は長尾一帯まで届いていた。ナガモノ(蛇)を祀りその最後尾であることからナガモノの尾、すなわち長尾(ナガオ)と名が与えられたという説がある。このこと



から三輪明神(桜井市)が頭で、長尾神社はその尾にあたると言われており、一緒詣りをすると利益(りやく)があるとされる。

また、竜が住んでいたとも言われ、竜王社(大和高田市)は竜の頭であり、長尾神社は竜の尾にあるとされている。長尾神社の手水舎を司るのが竜である。また、竜王社が大蛇の胴体であり、大神神社-竜王社-長尾神社が大蛇の化身であるという説もある。そのため、三輪明神と龍王宮の拝殿や本殿は西を、長尾神社の本殿は東で向き合っていると言われる。

以上のような伝説から近年は龍神、白大蛇の神々の宿る神聖な巡礼地(スピリチュアルスポット)として信仰が厚い。



綿弓塚で撮った集合写真

写真は岸場さん撮影、岸場さん有難う御座いました。